



自然災害との共生と豊穡の大地の物語

栗駒山麓ジオパーク だより 77

☎ ジオパーク推進室

(24) 8836

ファクス (45) 5936



過去の災害から学び、自然災害に強い栗原市へ

自然災害に強いまちの実現へ向け、災害から学ぶ教育プログラムやジオツアーを実施しています。災害から学ぶ活動をより推進するため、ジオパーク推進協議会に新たな専門員が加わりました。

●過去の自然災害から学ぶこと

今年、1923年の関東大震災から100年目です。この地震で、静岡県伊東市宇佐美では8メートルの津波が押し寄せましたが、適切な避難を行い、集落の全員が津波から助かりました。

宇佐美の小学生の作文集には、1707年元禄地震の津波経験が地域にあり、大人たちに高いところへ逃げろと言われて高台の神社に避難したと記録されています。過去の被災経験が、将来の子どもたちを生かした事例です。

先人が繰り返し経験してきた自然災害を知り、被害を軽減するには、過去の災害が残した痕跡から学ぶしかありません。災害の痕跡を整理・保存し、研究することは、私たちがこれから

先、持続可能な社会をつくるヒントになるはずで

す。今年、2008年岩手・宮城内陸地震から15年目の年でもあります。市内に存在する災害の記憶が薄れてしまう前に再整理し、記録に残すこと、そして、栗駒山麓ジオパークとして学びを伝えていくことが、自然災害に強い栗原市を実現する第一歩となります。



▲地すべりの現象を学ぶ子どもたち

●自然災害の専門員が仲間入り

令和4年10月から、神奈川県川崎市出身の鈴木比奈子さん

が、専門員として新たに仲間入りしました。

土石流災害の救助活動をした知り合いの話を、小さい頃に聞いたのがきっかけで、災害と生きる地域社会の記憶と行動に興味を持った鈴木さんは、専修大学大学院で地理学の博士号を取得しました。専門は、過去の自然災害記録を整理・保存し、それを生かした防災への活用です。

栗原の災害の記憶を、防災に生かす取り組みをしたいとのこと。今後の活躍にご期待ください。



▲鈴木比奈子専門員

企画展「みて、ふれて、わかった！ 栗駒山麓のおもしろいところ」

令和4年度に実施した栗駒山麓ジオパーク学習を振り返り、子どもたちが学習を通じて得た学びや発見を発表する企画展示を行います。

学習の一環で子どもたちが作成した、学習の成果品なども展示します。入場料は無料です。ぜひ、お越しください。

●日時 3月11日(土)～4月10日(月)

午前9時～午後5時

※毎週火曜日は休館(火曜日が祝日の場合は、翌平日が休館)

●場所 栗駒山麓ジオパークビジターセンター



▲小学生の学習の様子



(左から)遠藤さん、佐々木さん

日本一を目指す

3月26日(日)から28日(火)にかけて、愛知県春日井市総合体育館で開催される「第32回全国高等学校剣道選抜大会」に、小牛田農林高等学校2年の遠藤瑠才さん(若柳かけ)と、佐々木優朔さん(若柳内谷川)が出場します。

小学校から剣道を始めた二人は、互いを意識しながら稽古を重ね、腕を磨いてきた仲です。

二人そろっての出場に「日本一を目指して、頑張ります」と、大会に向けて意気込みを述べられました。



3年ぶりの国際交流フェスティバル

2月5日(日)、若柳ドリーム・パルを会場に栗原市国際交流協会主催の「第14回栗原市国際交流フェスティバル」が開催されました。

はじめに、駐仙台大韓民国総領事館林総領事の講演が行われ、日韓両国で人気が高まる韓流・日流文化と素晴らしい交流事業について紹介し、両国が未来志向で手を携えることが大切だと話しました。続いて、東北大学に留学中のインドネシア人による、民族楽器アングルンの演奏と舞踊が披露され、参加者は楽しいひと時を過ごしました。

まちのプロフェッショナル!



生活になくてはならない設備を製造

菅原産業株式会社栗駒工場は、用水路やため池の水門設備、水道ろ過設備、下水浄化設備、ごみ焼却設備などの機具を製造している会社です。また、県内を中心とした東北地方のダム設備の点検・保守も行っています。

製品は全て受注生産品で、設計から製作、据え付け、アフターサービスまで一貫して行っているため、製品納入後の故障対応や改修提案も速やかにできるのが強みの会社です。



▲組立作業中の水門設備

菅原産業株式会社栗駒工場

- 所在 栗原市鶯沢袋島巡前47-1
- 代表者 代表取締役 菅原 澄
- 従業員 28人
- 創業 昭和24年12月
- ウェブサイト <http://www.sugawara-sangyo.co.jp/>

インタビュー 三浦 魁斗 さん

水道ろ過用タンクなどの溶接加工を担当している三浦さん。溶接作業は危険を伴うため、安全第一で、早くきれいに仕上げられるよう心掛けているとのこと。

自分が関わった製品が、現場で正常に動いているところを見ると、達成感を感じるそうです。

